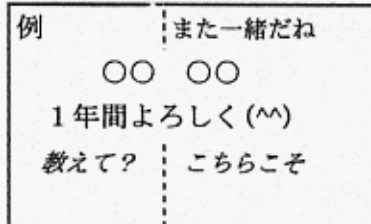


指導方法

- 『ミニタイムカプセル』システムとは
- ① A4の白紙を配付する。中央に自分の名前とメッセージを添え、半分に折る。
 - ②教師の合図で順に交換していく。



手元に来た用紙には、名前の生徒へのメッセージを書く。

- ③②を繰り返し、全員に一言書けるようにする。
- ④心的外傷を防ぐための配慮を、ルールを盛り込む。「知らない。」ではなく、例えば「教えてよ。」と肯定的に書くことを伝える。また非難は記入しないとのルールをあらかじめ決めておく。教師自らもSGEに参加することで、内容を見守り、必要に応じて介入する。
- ⑤個のふりかえりは、感想として裏面に記入し、全体へは、学級通信等を利用して一般化する。
- ⑥用紙は、個人の袋ファイルに入れ、クラス全員のファイルは、『ミニ・タイムカプセル』に収め保管する。
- ⑦システム化し、年間を通じて繰り返し、自己の内面の成長（よいところ）が友だちからの言葉により実感できるように配慮す

◇ 指導のねらい

支援の必要な子は、友人間の軋轢等により自己肯定度が低くなり、意欲をもてなくなってしまうこともある。対策のためには、支え合い、違いを認め合うクラス作りを具現化していく必要がある。

そこで、軽度発達障害を抱えていても参加が出来る、簡単なグループエンカウンターを実施し、クラス作りと個々への見守りを行う。

◇ 指導の評価

相手の心情が理解しにくく、グループ内での活どうが困難であった子が、相手から認められることの喜びを感じることができ、次第に相手を認めての発言・行動が増え、グループ学習が継続できるようになった。

また、その子とのトラブルで、そのこの言動に対して過敏に反応していた周囲のメンバーも、そのこの良さに注目できるようになった。